

# 米配当貴族指数が半値戻しを達成



シニア・ストラテジスト 石黒英之

## ポイント① 米配当貴族指数が半値戻しを達成

インフレ抑制に向けたFRB（米連邦準備制度理事会）による利上げへの警戒や、それに伴う米景気後退懸念が意識される中、S&P500配当貴族指数の底堅さが目立ちます。同指数はS&P500種株価指数構成銘柄の中で、25年以上連続で増配を行なっている企業で構成（注）されており、世界的にもよく知られている指数の一つです。

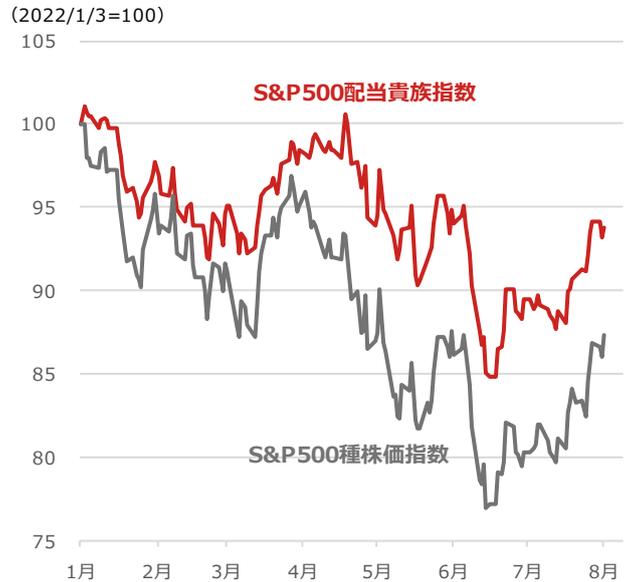
同指数の年初来の動きをみると、母集団であるS&P500種株価指数を上回るパフォーマンスとなっており、かつ、高値から直近安値の下落幅に対する半値戻しを早々に達成しました（右上図）。「半値戻しは全値戻し」という相場格言もあり、今後の動きに注目が集まります。

## ポイント② 米景気後退局面で力を発揮

S&P500配当貴族指数は25年以上連続増配している企業集団で成り立っていることからわかるように、景気や外部環境悪化の影響を受けにくく、安定した利益成長と増配を続けられる競争力の高い企業で構成されていることが強みといえます。同指数とS&P500種株価指数の相対指数をみても、米景気後退局面前後でS&P500配当貴族指数がS&P500種株価指数を上回るパフォーマンスとなる傾向があり、景気後退局面に強い指数といえます（右下図）。足元では利上げ加速による米景気後退懸念が非常に高い中で、同指数が優位となる動きがみられています（同図）。

長期的にみても同指数のトータルリターンは日米主要株価指数のそれを大きく上回っており（2022年6月24日付レポート「米景気後退に備え米配当貴族指数に注目」参照）、長期目線での積立投資にも適した指数といえるかもしれません。

## S&P500配当貴族指数とS&P500種株価指数



期間：2022年1月3日～2022年8月3日、日次  
・いずれの指数も課税前配当込み、米ドルベース  
(出所) Bloombergより野村アセットマネジメント作成

## S&P500配当貴族指数とS&P500の相対指数



期間：1989年12月末～2022年8月3日、月次  
・いずれの指数も課税前配当込み、米ドルベース  
・網掛けは米景気後退局面  
(出所) Bloombergより野村アセットマネジメント作成

(注) S&P500配当貴族指数は構成銘柄数が40を下回った場合には、20年以上連続で増配している銘柄の中から補充されます。

\*当資料は、一部個人の見解を含み、会社としての統一の見解ではないものもあります。

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆ないし保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認ください。